

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472800265	事業の開始年月日	平成12年4月18日
		指定年月日	平成12年3月28日
法人名	医療法人社団 厚仁会		
事業所名	グループホーム おおね		
所在地	(〒 257-0003) 神奈川県秦野市南矢名2-12-1		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
定員等	認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
		定員計	9 名
		工外数	1 工外
自己評価作成日	平成25年8月1日	評価結果 市町村受理日	平成26年3月31日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者様のこれまでの生活習慣を尊重し、それぞれが得意としてきたことや行ってきたことを出来るだけ続けて頂けるよう日々の生活の中に取り入れ、穏やかでいつも笑顔で安心して暮らしていける環境を作り出せるよう職員全体で取り組んでいます。
天気の良いときは散歩や買い物など出来るだけ屋外に出るようにし、お花見やドライブ、クリスマス会など行い、その季節を感じたり、楽しんだりして頂けるよう努めています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成25年8月29日	評価機関 評価決定日	平成25年10月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】

この事業所は小田急・小田原線の東海大学駅から徒歩5分、近くにスーパーマーケットやお店もあり、また、事業所の前の道路は東海大学の学生の通学路でもある。2000年3月開所の秦野市初のグループホームである。同法人経営の病院に隣接し、介護老人保健施設「ぬくもりの家」の2階に併設されている。1ユニットのグループホームで、2人部屋があり、8名に対応出来るが、現在は7名の自立度の高い女性の利用者が生活をしている。広々としたリビングと居室は10畳ほどで明るく、トイレ、洗面台、電話が備えられている。

【理念に基づいた家庭的な生活】

理念に「高齢者が地域社会の中で、自立とふれ合いを大切に豊かで明るく健やかに暮らせる」と基本方針5項目を挙げ、利用者の安心した、穏やかな生活を支えることを第一と考えている。利用者の主婦としての生活習慣を継続できるように、利用者と一緒に買い物に出かけている。その際、旬の物や食材などの意見を聞くようにしている。食事の準備や盛り付け、配膳など職員と一緒にやっている。

一緒に和やかな食事をすることや、漬物を作ったり、洗濯物を畳んだり、利用者は職員と家族のような関係で生活している。利用者が自分の家で暮らしているように、のんびりと穏やかに過ごせるように支援している。

【職員による自発的なケア】

介護計画を更に深めベテラン職員が利用者個々の自立に向けてレベル低下を少なくするように、それぞれに合わせたケアを行なっている。良い方法は申送りで職員間で共有し、実践に活かしている。利用者の目線に合わせての優しい、丁寧な声をかけ、いつでも笑顔で利用者に対応するなど、職員は時には家族のように接し、利用者を大事にする様子が見える。自立度の高い利用者と小人数であるために、行き届いたケアが行なわれている。日中過ごすリビングや廊下には利用者の行事の写真や作品を沢山、飾り、利用者を楽しませている。来訪する家族にも日常生活の様子を伝えている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム おおね
ユニット名	

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	高齢者が地域社会の中でふれあいを大切に豊かに明るく健やかに暮らせることを理念とし、事業所内に掲示しいつでも見ることが出来る。日々の申し送りの中で話し合いを持ち、共有・実践に努めている。	「高齢者が地域社会の中で自立とふれあいを大切に豊かで明るく健やかに暮らせること」を事業所開設時に作られた理念及び5項目の基本方針を玄関に掲示している。職員は朝夕の申し送り時やカンファレンス時に確認し合い、実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人内や地域の夏祭り、運営推進会議や保健福祉フェスティバルに参加している。日常生活では散歩や買い物など外出時や、法人内の公園で過ごす時等、近所の方と挨拶を交わしている。	自治会には法人が加入し同会主催の夏祭りに参加している。近隣への散歩や買い物時には地域の方々や通学途上の学生と挨拶を交わしている。市主催の福祉フェスティバルに参加している。踊りのボランティアが来所することもあるが、その他のボランティア、生徒などの受入れはしていない。	事業所を知ってもらうためにも地域の方や学生などとの一層の交流をされることを望みます。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や保健福祉フェスティバルに参加することにより認知症の方への理解や情報の発信を行っている。また、地域の行事に参加したり外出することにより認知症の方に対する理解を地域の方々に発信できている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回行い、日々の活動や近況報告、外部評価の結果報告等行い、利用者・ご家族の要望をお聞きし、サービス向上に努めている。また、推進会議に外出や昼食会を取り入れ、ご家族に利用者の普段の様子を見ていただけるようにしている。	運営推進会議は年6回、奇数月の第3木曜日に開催している。市職員、地域包括支援センター職員、地域代表、利用者全員と家族、職員が参加する。事業所から現況を報告するほか、熱中症対策、インフルエンザ対応など、その時々話題を挙げて話し合っている。焼きそば、タコ焼きのレクリエーションも行った。	自治会長又は自治会関係者や民生委員の参加を得て、地域へ情報を発信するとともに、地域からも情報を入手する場として充実、活用することを期待します。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の参加や書面にて毎月の利用者の状況報告・日々の様子や活動状況を報告している。県央地区のグループホームと協議会を持ち、情報交換や相互研修を行っている。	毎月秦野市高齢介護課の窓口利用者状況報告をしている。行政からの情報はFAXで受け、各種の研修に参加している。県央グループホーム協議会に2ヶ月に1回参加し、同会主催の交換研修も受け入れている。また秦野市地域密着型サービス事業連絡会にも参加し情報交換をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で定期的に行われている勉強会に参加や、介護マニュアルにより身体拘束に該当する具体的な行為を学び、周知している。エレベーター、非常階段は安全のため施錠を行っている。	身体拘束を行わないことを契約書に記し、明確にしている。職員にはマニュアルに基づき年1回、研修を行なっている。参加できない職員には送り時に確認し、徹底している。エレベーターや階段の出入り口は安全のため施錠しているが、利用者が出たい様子の際は、いつでも職員が付き添って出かけている。小人数のため、職員の見守りが十分に出来ている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で定期的に行われている勉強会や研修に参加や、介護マニュアルにより周知している。申し送り等言葉かけや対応方法について話し合い、虐待防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内や市主催の勉強会に参加し、学んでいる。利用者様のご家族からの相談は管理者が対応している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書等で説明し、ご理解を頂けるように努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者全員と家族代表に参加して頂き、意見や要望を聞いている。また、ご家族の来所時には職員一同笑顔を忘れず話しやすい雰囲気を作り出すよう努めている。1階の玄関に意見箱を設置し、法人全体で苦情や相談に対応している。	家族には運営推進会議参加時や、面会時に利用者の近況を報告し、意見・要望を聞いている。要望は個人的なものが殆どなので、その都度、対応している。年間4回「紙ふうせん」の便りで利用者の様子を伝え、また毎月の料金請求時に個人ごとに手紙で近況を知らせている。また、意見箱も置いている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回行われているカンファレンスにて管理者や法人担当者に職員の意見や要望を聞く機会を作り、行事や介護方針などの提案があり、運営に反映させている。	ホーム長(管理者)は職員が意見を言いやすい雰囲気を作っており、出された意見についてはその都度、話合っている。待遇面での相談もあり、法人に伝えて対応した。日常のケアの方法やレクリエーションは職員の意見を取入れて実施している。たくさんの写真が廊下や食堂に貼られていた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格給や能力給を設け、職員の資格取得やケアの向上に努めている。3～4日の希望休を取り入れたり、労働時間内に業務が終わるように業務内容を調整したり職員が働きやすい環境を整えるよう努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの希望や力量に応じて、法人内外の研修や他グループホームとの相互研修に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣事業所との協議会を持ち、情報交換や相互研修としてお互いの事業所を訪問して職員の交流や質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設内の見学や管理者との面談を行い、疑問や不安、要望等を聞く機会を設けている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階によりご家族が不安に思っていることや要望を聞き取り、サービスに反映出来るよう対話を通して信頼関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望を把握し、その時の状況に応じて他サービスの利用を含めた対応が出来るよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを念頭に、本人の体調やペースに合わせ料理の作り方や味付け、季節の漬物や行事の食物等、生まれ育った地域の食生活の話聞きながら教えてもらったり、感謝の言葉をかけたり、お互いに必要な存在であると感じて生活して頂ける様努めている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や手紙にて本人の生活状況をご家族にお伝えし、運営推進会議に参加して頂いている。通院や外出・外泊等ご家族と共に本人を支援して頂ける様協力をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時に現在の本人の状況を説明し、ゆっくりとお話ができるよう居室や食堂などの環境を整える。友人の面会や手紙などはご家族にお知らせし、関係が長く保たれるよう支援している。希望者には機関紙を送付している。	家族のほか、昔の仕事仲間や趣味の友達が来訪する際には、居室やリビングでお茶を出して歓談してもらっている。電話が各居室に備えてあり、自由にかけることが出来、取次ぎもしている。手紙や年賀状の支援もする。前の職場に関連した場所に連れて行って喜ばれている。日常の散歩時に馴染みの人達と挨拶を交わしたり、スーパーマーケットの店員と話をしたりする関係になっている。家族が協力的で、親戚や行きつけの美容院に連れて行ってくれる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりやすいようにレクリエーション時や食事時など場面に応じて席を移動したり、必要時職員が間に入り利用者間の交流を促したり、互いの関係を深め、より良い生活が送れるよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動された方の施設に職員が面会に行ったり、ご家族から退所後の様子をお聞きしたり、相談に応じたりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人がやりたいこと、してほしいことをその都度聞きながら出来る限り対応するよう努めている。意思の疎通が困難な方にはご家族からの意見や普段の行動を観察し、意向を汲み取るよう職員間で検討し、支援している。	利用時のアセスメントで本人、家族の意向を把握している。殆どの利用者は意思表示が出来るのでその都度、思いや意向を聞き、申送りにより職員間で共有し、ケアに取り入れている。意志の疎通の困難な方には声掛けをしたり、実際にやってみたりして、その反応を確認したり、家族に意見を聞いている。大きな問題はカンファレンスで話し合い職員間で共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはご家族や本人からこれまでの生活歴などをお聞きし、記述している。また、面会など日々の会話の中から情報収集を行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック・食事摂取状況や現状を個人記録や特記事項表に記載し、変調時は申し送りにて各自に周知出来るよう努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意志やご家族の要望を尊重し、医師や職員ら関係者と現状の把握と今後の方向性を話し合い、介護計画に反映させている。	利用開始時のアセスメントをもとに本人や家族の意見・要望を入れて介護計画を作成している。毎月、モニタリングを行なって見直し、1年で作り直す。状態の変化時にはその都度、対応する。介護計画は理念に基づき、利用者が安定した生活を送れるためのものである。これに基きベテラン職員が利用者個々の機能維持やレベルアップに向けて、作業やリクレーションなどを行なっている。状況は申送りで職員が共有してケアを行なっている。介護計画の実施結果は夜間についてのみ、記録している。	

27	<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人記録にて水分・食事摂取状況、体重・血圧、与薬状況、日々の状態等を記入し、情報共有している。また、特記事項表にて日々の様子や状態を分かりやすくし、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
----	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	OTやデイケア、管理栄養士等法人内のスタッフを利用してサービスに対する助言を得たり、幅広い支援を出来るよう努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の催し物や行事に参加したり、日本舞踊や太鼓のボランティアの方に踊りや演奏を披露して頂いたりしている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回法人内の病院にて内科受診がある。必要時、他科受診行えるようご家族の協力を得ながら支援している。	利用者全員が同法人の病院・内科医師の診療を受けている。認知症については、必要に応じて同院の専門医に相談できる。歯科は週1回の訪問診療を、希望者2名が、他の方は家族が個別に対応している。整形や皮膚科には家族が連れて行き状況を知らせてもらう。法人のデイケアや作業療法士の利用も出来る。健康診断は年2回、法人で実施している。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご本人の日々の状態を観察し、異常時には法人内の病院や老健の看護師に相談し、受診や処置が受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院での面会の際に医療相談員や看護師等から本人の状態や様子など情報を得るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		
			実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>現在、事業所では看取りは行っていない事や、重度化した際の対応について、退去の時期や目安について、入居契約時より説明行っている。重度化した際、医師や管理者からご家族に説明行い、ご本人の状況に合う環境を提案している。</p>	<p>事業所の方針で看取りは行なっていないことを契約時に家族に説明している。重度化した場合には、家族、医師、事業所が話し合い、病院や他の施設を紹介して対処している。緊急時には救急車で日赤病院や協同病院に搬送して対応している。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時のマニュアルがあり、事業所内に掲示し、周知している。法人内で定期的に勉強会があり、職員が参加している。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>法人内で年2回の避難訓練と消防訓練を行い、避難経路の確認や災害時の対応の訓練を行っている。今年はグループホームの台所が火元として訓練を行っている。</p>	<p>防災訓練は同建物内の介護老人保健施設と同時であるが、事業所独自に行なっている。消防署の立会いはない。昼間に夜間を想定した訓練を実施しているが、避難誘導は非常ドアまでで、屋外には出るまではしていない。災害時通報装置が消防署と連動している。備蓄は法人が用意している。地域の防災訓練が近くで行われる時には参加している。地域との連携は今の所ない。</p>	<p>消防署立会いの下、訓練を建物内の介護老人保健施設と合同で行なうことや、地域の人にも知らせ、協力が得られるような体制作りをすることを期待します。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴の介助などご本人が恥ずかしいと感じやすいような場面では周りの方に気付かれないような言葉掛けや介助を行い、ご本人のプライバシーと羞恥心に配慮して対応するよう心掛けている。	個人情報保護については玄関に掲示し、法人の研修で職員は周知している。特に言動には注意している。トイレ誘導はそれとなく、周囲にわからないように「お部屋に行きましょう」などと声かけしている。利用者間の争いの時は、それとなく職員が間に入って対応している。個人情報の書類は鍵を掛けて保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩や買い物、ゲームやレクリエーションの参加など必ずご本人の思いや希望を聞き、ご自分の意志を表現しやすい環境を作り出すよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自分から何をしたいのか言える方が少ないので、お茶の時間など世間話などしながらご本人のやりたい事や要望を聞き、希望に添えるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意志を尊重しつつ、季節に応じてタンスの中身を入れ替え、ご自分で出しやすいようにしたり、いつも同じ服にならないよう心掛けている。		

40	15	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の状態に合わせて柔らかさ、大きさ、刻みなど変えて調理している。料理の下準備や盛りつけ、片づけなど得意とする事をして頂き、食事時は職員も同じテーブルにつき、若い頃の話や世間話などしながら食事をしている。</p>	<p>献立はその日の食材を見て利用者と話合いで決め、職員が作る。利用者は野菜を切ったり、下準備や盛付、配膳、後片づけ、食器洗いを手伝ったりしている。献立については管理栄養士が確認している。利用者に応じて刻み食にも対応している。食材は利用者と一緒に駅近くのスーパーマーケットなどで旬のものを利用者と相談しながら買っている。誕生日の赤飯、母の日、敬老の日など季節に応じて行事食を楽しんでいる。ファミリーレストランや回転寿司へ外食に行く。調査当日は、職員は利用者と同じ物を一緒に話をしながら食べていた。</p>	
----	----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事・水分摂取量、献立やカロリー計算の記録を行っている。利用者の好みや状態に応じて食材の形態を変えたり、補食を提供している。食事制限のある方は制限の範囲内で嗜好に合わせた品を提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯みがきの声掛け、見守りを行い、必要時に介助している。義歯は夕食後洗浄剤にて殺菌洗浄を行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄状況や行動を観察し、随時トイレ誘導を行い、トイレでの排泄が行えるよう支援している。	自立の方は3名。他の方4名はリハビリパンツなど利用している。各居室に声掛け誘導することで自立に向けて支援している。排泄状況を記録することでパターンを把握して、声掛け誘導をする方もいる。共用トイレは手摺り、車対応が出来る造りになっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事の中で野菜や海草類を多く摂取するよう心掛けている。散歩や体操などで身体を動かすよう働きかけたり、必要に応じて下剤の調整を行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の曜日は決まっているが、希望する時間や順番を聞きながら対応している。また、必要時・要望時、随時入浴ができる体制がある。	週3回（月・水・金）午前10時ごろから、見守り介助で入浴している。希望があれば随時対応する。リフト浴を1名が利用している。脱衣所は冷暖房設備が設置されている。入浴を嫌いな方は好きなことをさせて楽しい気分にしてから入浴している。仲の良い友だちと一緒に入浴することもある。お茶がらを乾燥させて入れたり、ゆず湯や菖蒲湯も楽しんでいる。清拭や同性介助にも対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望や好みに配慮して快適に過ごして頂けるように室温や光量、音調や寝具調整等を行い、心地よく休めるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬リスト集にて利用者ごとの服薬情報を把握している。処方薬の変更の際は受診ノートや申し送りを通して各自周知するよう努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事や生け花、手芸、書道、塗り絵、歌、かるた、体操など生きがいや張り合いのある日々を過ごして頂けるように支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望をお聞きし、散歩に出掛けたり買い物同行をして頂いている。年中行事として花見や外食などドライブに出掛けたりしている。家族や友人の誘いで外出する事もある。	天気の良い日には近隣を散歩したり、駅前スーパーマーケットや八百屋まで買い物に出かけたりしている。外出時だけ車椅子を利用する方もいる。自治会の夏祭や月1回ぐらいのドライブ、外食、行事で秦野市の戸川公園の花見、タバコ祭などに出かけている。家族と一緒に外出する方もいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が同行し、近所の店まで出掛けて好みのものを買うなどの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い等、書ける方には書いて頂いている。また、家族や知人から品物等が届いた時はお礼の電話を入れ、近況を話していることもある。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下に季節の花を飾ったり、外出時や日頃の写真、作品を掲示し皆で見て楽しんだり、家族の来所時に日常の様子が分かるようにしている。廊下や通路は車椅子で通れるように整理している。暖色系の照明を使用し、室温調整を行い心地よく過ごして頂けるよう努めている。	リビング兼食堂は明るく、広いスペースがあり、食事や日中の作業、リクリエーションが出来るようにテーブルを分けて置いてある。季節の花を飾ってゆったりと寛げるような雰囲気を作っている。壁には日ごろの行事の写真や作品を飾っている。二階の入り口には応接セットを置いている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や玄関前にソファを置き、一人の時間を過ごしたり、利用者同士やご家族、知人の方とゆったりとした時間を持てるような場所を作っている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人が長年利用されていた家具や寝具などを持ち込んで頂いたり、家族の写真や手紙、プレゼント等を室内や机の上や戸棚に入れておき、いつでも見て楽しんで頂けるようにしている。	居室は陽当たりがよく、10畳ほどの広さがある。テーブル、クローゼット、トイレ、洗面台、電話機が備えてある。入口には部屋番号と利用者の写真や似顔絵のプレートが掛けられ、自分の部屋を分かりやすくしている。冷蔵庫、テレビ、本箱、タンスの他、布団、化粧道具、縫いぐるみなど利用者好みの物を持ち込んでいる。壁には家族の写真や自分の作品を飾り、過ごしやすい部屋にしている。居室の清掃は、職員も手伝っているが、出来る利用者は自分で行なっている。	

55	<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内はバリアフリーで各居室にトイレ、流し台、空調設置している。トイレや居室に分かりやすいように目印を付けたり、スケジュール表を貼りご自身で判断が出来るようにしています。</p>		
----	--	--	--	--

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム おおね

作成日 2014年 3月 28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	日常生活をホーム内で過ごす時間が多いため、他者や外部からの刺激を得る機会が少ない。	地域の方々やボランティアさんとの交流を増やし、生活の活発化を図る。	・ボランティアの活用 ・自治会の行事や地域の活動に参加する。 ・法人内の行事に参加する。	12ヶ月
2	35	災害時・非常時の対応について不安がある。	災害時・非常時の対応や機器の取り扱いについて職員各自が身につける。	・法人内や地域の防災訓練に参加する。 ・緊急対応の勉強会や研修を行う。	12ヶ月
3	13	職員の介護技術や接遇、認知症に対する理解が不十分などところがある。	研修や教育訓練を通して介護の知識や社会人としての質の向上を図り、より良い職場環境を作る。	・法人内外の勉強会、研修の参加。 ・職員の資格取得の推進。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。